

(8) 共産主義者同盟統一委員会……………65年=通称・共産同(統一派)

『先駆シリーズ』第1号・2号(共産主義者同盟・教宣部 1965・1966)

機関誌『共産主義』復刊準備号・復刊1号(レポルシオン社・先駆社)

機関紙「先駆」第1号～33号(「烽火」と「赤旗(せつき)」の合併・先駆社 1965～1966)

●社会主義学生同盟……………65年=通称・社学同統一派

機関誌『理論戦線』復刊第4号(社学同東京都委員会)……「争鳴」+第三次社学同「理論戦線」合併

機関紙「赤光」第1号～20号(社学同全国委員会・先駆社 1965)

機関紙「社学同全国通達」第1号～(社学同全国書記局)

機関紙「社学同都通達」第1号～(社学同東京都委員会…)

(9) 共産主義者同盟……………66年=通称・第二次アト

機関誌『共産主義』第8号～13号(共産主義者同盟・戦旗社)

機関誌『共産主義』第14号・15号(共産主義者同盟・戦旗社)……………12・18ブント

機関紙「戦旗」第76号～249号(「黎明」75号の継続・共産主義者同盟・戦旗社 1966～1971)

機関紙「戦旗」第250号～264号(共産主義者同盟・中央戦旗社 1971)…12・18ブント

英文機関紙「SEN—KI」NO1～NO8(共産主義者同盟国際部 1968～1969)

機関紙「プロレタリア通信」第1号～〇号(共産主義者同盟中央委員会政治局 1965～1969)

機関紙「火花」第1号～10号(共産主義者同盟関西地方委員会通達 1969～)

機関誌『檄 赤報』創刊号・2号(1971)

機関誌『鉄の戦線』第1号～〇号(共産主義者同盟中央労対部・戦旗社)

機関誌『赤軍』第1号・2号(共産主義者同盟東京南部地区委員会 1967・1968)

機関誌『マルクス・レーニン主義』第1号・2号(共産主義者同盟東大総細胞 1968…旧マル戦派)

機関誌『解放』第1号(共産主義者同盟中央大学細胞 1967)

機関誌『全世界を獲得する為に』第1・2号(共産主義者同盟同志社大学細胞 1968)

機関誌『赤きテキサス』第1号～〇号(共産主義者同盟東京西部地区委員会 1970)

『羽田闘争 10・8—11・12と共産主義者同盟』(共産主義者同盟・戦旗社 1967)

『国際階級闘争資料集』NO1(共産主義者同盟国際部 1968)

『4・28 安保・沖縄闘争』(共産主義者同盟・戦旗社 1969『覆刻版 理論戦線』エスエル出版会収録 1983)

『東大闘争—その意味するもの』(共産主義者同盟千葉県委員会 1969)

『労働運動の現段階とわれわれの任務』共産主義者同盟 1969 増補版 1970)

『革命の軍隊 党の革命 10・11 月闘争の運動=組織論的総括』(共産主義者同盟・戦旗社 1969)

『復刻版 共産主義・復刊準備号—12号』(鹿岩社 1982)

『復刻版 戦旗 一九六八年四月—一九六九年六月』(鹿岩社 1984)

●関西地区反戦連絡会議

機関誌『反乱』創刊号・2号

『原子力空母寄港を許すまじ』

『労働者もヘルメットをかぶった』

『成田空港設置反対闘争資料』

『軍事・外交シリーズ(2)日帝の海外侵略と沖縄問題』

『第三の蜂起』(中電ストライキ実行委員会 1969)

機関誌『攻撃』NO1(1968)

●堺地区反戦青年委員会

機関誌『反戦』NO1

『佐藤訪米阻止！職場討議資料』(堺地区反戦青年委員会)

『佐藤訪米阻止闘争・報告・総括』(堺地区反戦青年委員会)

『エンタープライズ阻止闘争報告集』(堺地区反戦青年委員会)

●東海地区反戦連絡会

機関誌『青年戦線』

●社会主義学生同盟……………66年・社学同全国委員会

機関誌『理論戦線』復刊1号(6号)～9号(社会主義学生同盟全国委員会・戦旗社 1968～1969)

機関紙「反帝戦線」第1号～〇号(社会主義学生同盟全国委員会 1968～1969)

機関紙「赤軍」No1～10?(社学同愛知県委員会)

機関誌『若きポリシエヴィキ』復刊1号・創刊2号(社会主義学生同盟早稲田大学支部 1968)

機関誌『鉄路』創刊号～(社学同早大全学委員会 1966～)

機関誌『プロレタリア独裁』創刊準備号～(社学同早大全学委員会 1969～)

機関紙「コムニズム」第1号～〇号(社会主義学生同盟明治大学支部)・・)

機関紙「若き戦士」第1号～〇号(社会主義学生同盟明治大学支部)・・)

機関紙「反帝戦線」NO1～(社会主義学生同盟明治大学支部)・・)

機関誌『革命の通達』創刊号(社会主義学生同盟東京教育大学支部 1969)

機関誌「戦士」第1号～(社会主義学生同盟中央大学支部 1968)・・)

機関紙「先駆」第1号～(社会主義学生同盟中央大学Ⅱ部支部)

機関紙「反帝戦線」NO1～(社会主義学生同盟東京大学支部)・・)

機関誌『進路』第1号～〇号(社会主義学生同盟三多摩地区委員会 1968)

機関誌『指針』NO1～5(社会主義学生同盟三多摩地区委員会 1969)

機関誌「戦士」第1号～(社会主義学生同盟東北地区委員会)・・)

機関紙「戦士」第1号～(社会主義学生同盟関西地方委員会)

機関紙「理論戦線」NO1～100(社会主義学生同盟京都大学支部)

機関紙「紙の弾丸」NO1～10(社会主義学生同盟同志社大学支部)

機関紙「赤軍」NO1～(社会主義学生同盟同志社大学支部 LC1968)

機関紙「学生戦線」第1号～(社会主義学生同盟大阪市大支部)

機関紙「反帝戦線」第1号～(社会主義学生同盟大阪市大支部)

機関紙「闘う全学連」NO1～23?(全学連 市大活動者会議 1968)

『文化大革命と世界革命』(社学同京大支部・石川 明 1967)

『過渡期世界の戦争の性格と武装』(社学同関西地方委員会 1969年11月頃)

『覆刻版 理論戦線・1-8号』(エスエル出版会 1983)

●全日本学生自治会総連合(三派全学連)・・・66年再建全国大会・委員長一斉藤克彦

●全日本学生自治会総連合(全学連)・・・68年第一九四大会・69年第二十四臨時大会

『4・26 全国学生ゼネスト4・28首相官邸突入闘争勝利にむけて 安保—沖縄闘争資料』

(全学連中央執行委員会 京都府学連・大阪府学連・兵庫学生反戦連合・和歌山大経・滋賀大学芸・短期自治会 1969)

機関紙「闘う全学連」第1号～(全学連大阪市大活動者会議)

●共産主義青年同盟・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・69年

機関誌『キム 佐藤政府打倒・霞が関占拠へ』1号

(共産主義青年同盟中央常任委員会 1969 委員長—田宮高磨→岩崎司郎)

『4・28 沖縄安保闘争・中央権力闘争』(共産主義青年同盟 1969)

機関誌『ぼろしえびき通信』第1号～(共産主義青年同盟弾圧対策委員会 1969)

『キム』創刊号(1971-12・18 プント系)

●日本反帝戦線・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・70年

機関紙「反帝戦線」第1号～6号(関西地区反帝戦線 1970)

●高校生会議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・61年・旧安保改定阻止高校生会議

●日韓条約阻止高校生会議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・65年・高校生会議の改称

●高校生会議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・66年・日韓条約阻止高校生会議の改称

●社会主義学生同盟高校生委員会

●高校生安保闘争委員会(高安闘委)

●大阪府高校生連絡協議会(府高連)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・68年～69年

機関誌『戦雲』創刊号～(1968年)

●10・21闘争実行委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・68年

●全日本青年教師集団・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

機関誌『教育労働者戦線』第1号～5号(全日本青年教師集団・・)

機関紙「探究」第1号～3号

●青年医師連合・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・66年=通商・青医連

機関誌『青年医師』第1号～〇号(青年医師連合・・)

『青医連運動 日本の大学革命(6)』(青医連中央書記局編・日本評論社 1969)

『現代の医療被害』(青年医師連合・三一書房 1978)

●全日本医学生連合(医学連)・・・・・・・・・・・・54年結成—65年第12回大会(社学同の指導権)～

機関紙「全日本医学生新聞」～

●反帝医学生戦線(社学同医学連委員会)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・67年

●反帝医療戦線・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・68年

●全国病院反戦連合(準備会)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・70年

機関誌『医療戦線』創刊号・2号～(全国病院反戦連合(準)書記局)

●フェニックス社・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・70年

機関紙「医療戦線」創刊号～10号(1970～1971)

●精神科医全国共闘会議(Psy 共闘).....70年

機関紙「Psy 共闘ニュース」第1号～

『国家と狂気』(精神科医全国共闘会議編・田畑書店 1972)

●全国精神医療研究会.....71年

機関誌『精医連』第1号～

●保安処分紛争全国共闘会議.....(事務局長一山本康夫医学連委員長)71年

機関誌『打ち砕け、鉄格子』第1号～

●自動車労働者交流会議.....

機関誌『自動車労働者』第1号～〇号(自動車労働者交流会議..)

.....
雑誌『序章』第2号(『反逆への招待』『逆光の思想』合併)～16号(京都大学出版会 1970～1975)

雑誌『査証』第1号～7号解散号(査証編集委員会 1971～1973)

雑誌『季節』創刊準備号・第1号～12号・増刊号(鹿砦社 1978～1988)

(コメント)

① 基本文献は、鹿砦社・エスエル出版会で復刻版が出されている。又、様々な方々の「系譜」「分派」を前提にした回顧書籍も出されており、各々の第二次ブントの経験は語られるが、客観的な「通史」が無い。

②「全日本青年教師集団」については、「前進」90号(1962年5月15日)の「マル青同に結集して、日共・構改派打倒へ前進せよ！」記事に、第7回全国代表者会議でマル青同(マルクス主義青年労働者同盟)への結集が記載されている

又、「“青年教師集団”にたいするわれわれの闘争」(1961年4月10日)「教育労働者委員会指導部を確立せよ！」(1962年10月29日)という黒団寛一の文書(『革マル派五十年の軌跡』第3巻)がある。後年、マル青労同教育労働者委員会で、機関誌『教育労働者』が続刊されている。別途残存したメンバーが第一次ブントの「全日本青年教師集団」を継承したと思われる。

「自動車労働者交流会議」(機関誌『自動車労働者』)も、「全日本青年教師集団」同様、『共産主義』『戦旗』の広告からピックアップしたのみです。

③高校生組織については、機関誌紙は未見です。一定の影響力が言われるわりには、革共同三派の高校生組織と比べて不明点が多い。

④各大学の共産同、社学同の機関紙(ピラ?)は、WEB検索でヒットしたものを列記しただけです。一部は、WEBにオリジナルがアップされているので、存在証明にはなると思います。